

特集2「コロナ時代」

コロナ禍と学生生活 2021 年度の報告

ー学務委員会による対応と学生ピアサポート活動

学務委員 清水 奈名子

1. 国際学部学務委員会による支援

コロナ禍の影響を受けて、ほぼすべての授業がオンライン授業となった2020年度とは異なり、2021年度はオンラインと対面の両方を組み合わせた授業が実施されることになった。その結果、2021年度は前年度に比べれば、学生たちは対面授業の機会に他の学生と交流する機会をもつことができるようになった。そうではあるものの、従来とは異なる環境での学生生活を余儀なくされた学生たちを支援するために、昨年度に引き続き、学務委員会では主に以下の4つの方法で、学生への支援活動を続けてきた。

第一は、前期と後期にそれぞれ学年別ガイダンスを実施することで、コロナ禍における学生生活上の注意点、大学で利用可能な支援策や相談窓口などの紹介を行ったことである。困難を抱えた学生が孤立しないように、学期初めにガイダンスを行い情報共有に努めた。

第二は、学務委員会連絡用に教務用のオンラインツールであるC-Learningを活用し、学生への支援やオンラインで開催されるイベント等の情報を適宜発信したことである。コロナ禍によって、学内外でオンラインでの企画が増加しているが、それらの情報を、適宜オンラインツールを使って学生たちに告知することで、制限が続くなかでも充実した学生生活を送ることができるように支援を続けている。

第三は、国際学部が保有するノート型パソコンの貸出である。経済的な理由や、これまで使っていたパソコンの故障などによって、学修に必要なパソコン機器が使えない学生を支援するために、昨年度より継続して貸し出しを行っ

ている。今年度も一定数の利用があり、支援ニーズが継続的に確認された。

第四は、全学のピアサポート制度の運営に関して学務委員会が責任をもつことによって、1年生が上級生たちと交流し、授業や学生生活に関する情報交換を行う場を確保したことである。

2. 全学のピアサポート制度による支援

2020年度に全学の制度として開始された「宇都宮大学学生支援ピアサポーター制度」は、2021年度も継続されることになった。サポートを受ける対象者としては新入生（学部1年生）が想定され、学部の2、3、4年生がサポートを行う者（＝ピアサポーター）となり、「新入生に寄り添い解決策を模索」すること、並びに「学生同士のつながりをつくりキャンパスライフ再開を支援」することを目的に、前期は2021年6月から、後期は2021年11月から活動を開始した。

前期のピアサポーター担当希望者を募集したところ、前期は2年生13名、3年生5名、4年生8名の、合計26名から応募があった。応募した理由としては、表1に示したように自らが支援を受けた経験から応募を決断した学生も見られた。支援を受けた経験をもつ学生が、他の学生の支援を担うようになるという、ピアサポートならではの好循環が生まれていると言えるだろう。

表1 ピアサポーターに応募した理由

昨年、私自身ピアサポート制度で悩みが解消されたように、微力ではありますが一年生の不安や悩みを少しでも解消することができればいいなと思い応募させていただきました。(2年生)
昨年ピアサポーター制度を利用し、先輩方にたくさん相談をしました。それによって悩みや不安が軽減されたため、私自身も少しでも1年生の力になればと考えています。(2年生)
昨年度、ピアサポートがあって良かったと感じていました。今回はサポーターとして1年生の力になれるよう努めます。(2年生)
1年生時にピアサポーターの方に、オンラインで会話した時間以外にもメールを通じて大変お世話になりました。大学生になったばかりにもかかわらず、コロナの影響で登校できなかった1年生にレポートの書き方やそもそもの大学の普段の様子を教えてください、大変心強かった。今度は私が1年生を支える立場に立ちたいと思いました。英語は日常会話程度ですが可能ですし、私自身人とコミュニケーションをとるのが好きな性格なので、この性格を生かしてサポーターを務められたら幸いです。(2年生)
サークル活動などもまだ現状厳しい状況で何か活動をするという機会があまりなく、普段何もせず無駄にしている時間を少しでも1年生のサポートという形で有益に使えれば良いと感じて応募しました。(2年生)
大学の雰囲気や講義の取り方などわからないことや慣れないことがある1年生や3年次編入生も多いと思います。私自身も入学した当時は新型コロナウイルスが流行していなかったとは言え、そして毎日のようにキャンパスに通っていましたが、やはり不安でストレスに感じた経験があるため、彼らの支援を行いたいと思いました。(3年生)
昨年度も参加させていただいたが、大学入学したばかりの一年生はわからないことが多々ある中で、コロナの影響により人との交流の機会が少なくなっているため、ピアサポート制度は非常に良いと感じている。(4年生)
私自身、3年次編入生ですので、少しでも編入生の不安の解消のお手伝いをできたらと思い、申し込みをいたしました。留学生や外国籍の方々のお手伝いもできたらと思います。(4年生)

前期はグループ別活動を重視し、1年生全員を8人から9人から成る13のグループに分け、各グループに2名ずつのピアサポーターを配置した。1年生の参加は自由参加として、月に2回程度オンラインツールを使った交流の機会を確保するように依頼したところ、全てのグループが9月までに2回以上の活動を行っていた。ピアサポーターによる活動報告によれば、「テストに向けての相談、夏休みの過ごし方へのアドバイス、免許に関するのアドバイス、帰省に関する相談、学校生活における雑談」などが話題になったという。

後期については、前期にピアサポーターを経験した学生のなかから継続希望者を募集したところ、2年生10名、3年生5名、4年生6名の合計21人が応募したため、これらの学生に依頼することとした。後期はグループ別活動に加えて、一部では前期から開始した自由参加型活動として、特定のテーマを決めて集まる形式の活動も行っている。このテーマ別の活動は、2020年度の活動の課題として提案されていたものである。

2021年度の自由参加型活動のテーマは、表2にまとめた。テーマも含めてピアサポーター同志で相談をして企画し、当日の運営もすべてピアサポーターが担うことで、自律的な活動を行っている。

表2 2021年度自由参加型活動のテーマ

2021年
7月 夏のピアサポート相談会 期末試験の対策やレポートの書き方、夏休みの過ごし方など
9月 夏のピアサポート相談会 履修相談、オンライン交換留学・海外体験・就活
2022年
1月 ピアサポート相談会 英語学習方法について

1 月 期末テスト対策・お悩み相談会 期末試験対策・レポートの書き方について
1 月～2 月 卒論ゼミ紹介 ゼミの方法・過去の卒論テーマの紹介など
2 月 今年1年間の振り返りと春休みの予定共有会（予定） 大学に入ってから経験、春休みの予定の共有、春休みの過ごし方についての助言など
3 月 新学期お悩み相談会（予定） 新学期に向けて授業・課題の難易度など履修相談、アルバイトやサークルなど日常生活のお悩み相談にも対応する

3. ピアサポート活動の意義と課題

以上で見たように、変則的ながら対面授業を開始した2021年度においても、学生自身が学生のニーズをくみ取りながら自律的に支援するピアサポート活動は、前年度に支援を受けた学生が支援をする側にまわるという好循環を生み出しながら継続することができた。またピアサポーター同士の経験を共有するために、複数回のピアサポーター・ミーティングもオンライン上で開催してきた。

表3では、2021年9月に実施した、前期ピアサポーターを対象としたアンケートに記載されたピアサポート活動の意義と課題について紹介している。意義としては、少人数であることやLINEなどのツールを用いることで相談しやすい場となったこと、変則的な学生生活において孤立しないために相談相手が確保されていたこと、日本に入国できずに海外に留まらざるを得ない留学生もオンラインツールを使って参加できたこと、ピアサポーター同士も異なる学年で構成されていたために相互に情報交換ができたこと、などが挙げられていた。

一方で課題としては、グループ活動の開催時間にメリハリをつける必要があること、前期の活動のみを全員参加として、その後は希望者のみにしたほうがよいこと、LINEのように学生にとって使いやすいツールの活用、精神面での

相談などが挙げられていた。そこで2021年度後期の活動では、グループ活動への参加は希望者のみとして、他の活動は誰でも参加可能な自由参加型活動として企画することにした。今後も学生にとって実質的な支援を実現するためには、学生の意見を取り入れた運営が必要である。

表3 前期ピアサポーターによるコメント
(2021年10月実施アンケートより)

意義
ラインを用いることで一年生が気軽に履修を相談できる場ができたと思う。
変則的な学校生活の中、1年生が孤立せずに相談できる相手が確保されていたこと。
何気ない日常の会話から右も左も分からない1年生のために先輩目線からサポートできることを可能な限り伝えることが出来たと思います。メンバーの方1人が海外の方にいらっしゃいましたので対面でミーティングをすることは出来ませんでした。Zoomでも楽しく会話をすることが出来ました。
学年の違うサポーターと共に活動することで幅広い支援ができたように感じます。
少人数制であるため一年生から質問が出やすい点、また会話内で新たに出た疑問をすぐに先生に連絡相談で聞くことができるという点が良かったです。またサポーターで同じだった先輩のお話も聞けた点は有意義であったと感じました。
コロナ禍で先輩と知り合う機会がないために、先生方の授業の進め方や雰囲気はわからないといった質問が多く、そういった点は役に立てたと思います。
履修の話やこれからの学生生活のプランについての話を共有できたことで、一年生の力になることができたことと実感できました。私自身、一年生のうちからこれをやっておけばよかったなと思うことも多かったためそういったものを含めて伝えることができて良かったです。

課題

私のグループの反省として、集まる時のメリハリがなかったと思います。質問の内容によっては時間は前後すると思いますが、何分で終わりにすると目安を決めると、お互いやりやすいと思います。参加を希望しますと1年生から連絡が来ても、その後一回も参加しない生徒がいたので、本当に希望する方は少ないことと、本当に希望する方だけでグループを作成することができれば良いと思った。

前期は最初だけ全員にし、履修登録やサークルの勧誘期間が終わったあとは希望制にした方が良かったと感じた。今年は対面授業があったこともあり、昨年よりも早く先輩とのパイプができた学生も多かったように思う。

LINEのグループを作っていたので、ZOOMを開かなくても1年生が相談を不定期で送ってくれた。LINEグループを作ることで自分の好きな時間に質問や返信ができるし、他の子にも参考になると思う。LINEは私たちにとって1番馴染みのあるコミュニケーションツールなので有効に活用できると感じた。

精神面での相談事は今まで一度も受け取ったことがないので、本当はない場合はもちろんよいのですが、もしかすると何か相談できない、またはしづらい理由があるのかもしれない。